

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105920		
法人名	有限会社 和(なごみ)		
事業所名	グループホーム やすらぎ東古松		
所在地	岡山市北区東古松南町4-35		
自己評価作成日	平成31年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105920-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成31年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分の親が安心して預けられるグループホーム。
そして入居してバックを支えている家族も将来入りたいと予約したいホーム。
現在入居している方々に感謝されるホーム。(地区の小学生が取材に訪れて「こんな所が一杯増えたら家族も楽で私にも楽しいのになあ」と入居者が言っていた。)
そして退去後も家族の方が訪れるホームです。又、介護度が良くなって、小規模多機能施設に移って頂く例もあります。目標達成計画に掲げて取り組んできた「家族との連携」や「共用空間の活用」も目標を達成することができた。花壇には四季の花を楽しめるよう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームを何度訪問しても凄いと感心してしまうのは「食事の素晴らしさ」だ。開設当初から続けている「御飯に一汁五菜」の食事が愛らしい小鉢に盛られ食欲をそそる。「何もせんで美味しい御飯が戴けて・・・」と言うAさんを始めてとして全員が完食だ。「年取ったら食べる事が一番楽しみ」と笑顔のBさんに隣の人も頷く。近年職員不足で食事作りを簡素化せざるを得ない施設が多い中、この住民は幸せだと私は思う。次に優れている点は「リビングの狭さ」が弱点かもしれないが、それを逆手にとって「寄り添い近い関係を築く」「利用者の立位・歩行を狭さが貢献している」等。このメリットも捨て難い。今朝のリビングでの活動は職員のリードで頭や体・お口の体操、水分補給もしながら懐かしい歌も合唱した。その間に職員が上手に色々な話しかけをして、利用者とのコミュニケーションを図る状況が頼もしく思えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員のみならず往診に来て下さっているドクターが将来はこのホームに入りたいと言って下さっているし、近くの住民も「入る様になったら入れて下さいね」と言っている。	掲げている理念を具体化して管理者は「利用者に寄り添う」「見掛けではない、心からの親切」「その時よりベターの判断を」「考えながらのケアを」等、気をつけて対応するよう職員に指導、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人達が時々庭になっている柿や野菜の差し入れをして下さったり、犬や猫と一緒にホームに立ち寄り下さる。又、町内の行事と一緒に参加して顔馴染みとなっている。	住宅街の中に在るホームで、事業所の家族がこの地の人である事も関係して地域とのつきあいは深い。特に地域の老人会とのつながりは運営推進会議にも影響が大きい。利用者の、近くの公園等への散歩時には、近所の人との交流もある。	今日は大学生がボランティアで来てくれる日。彼は「1年半位前から土曜毎、折紙をネットで調べて皆さんと楽しんでいます」との事。色々な人がホームに来てくれる事は嬉しい事だ。今後もこのような応援隊を増やして下さい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者が自由に集える場所として近くの集会所で月2回集い、町内会長や民生委員も自発的に参加して下さっている。良い雰囲気（雀の会）に出席し、管理者はいなくてはならない存在となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回催される会議は町内会長、民生委員、包括の方、家族の方、地域の人達との会合に参加者はお茶と菓子ははさんで出席、情報交換しており、ホームを見学して少し体験して頂く様に地域の人にもおすすめしている。	定められた通り定期的に地域や包括の方々の参加を得て開催している。介護の世界で今問題視されている虐待や身体拘束の問題についてこの会で話し合ったり、このホームでの対応を報告し理解してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村へは地理的に近く（同じ小学校区）でもあるので度々密に連絡を取っており、担当者とは全てにおいて把握して頂いている。（管理者の母が104歳で亡くなったのも知っていた）	運営推進会議で行政関係者から認知症サポーター養成講座等の情報提供があったり、生活保護関連の連携の為、市の担当者と行き来する等、日常的に親密な協力関係を継続するように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に施錠しておらずドアホンをしないでいきなりドアを開いて訪問される事も多い。身体拘束は一切ない。	法律的に禁止の対象となるような具体的な事例は無いが、運営推進会議を始めとして、職員間で話し合ったり、心理的拘束につながる対応やケアについても意識して注意し合うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	いつもかなりの時間をかけて十分な説明を行っており理解納得が得られていると思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は常に学ぶ機会を持ち、近隣のグループホームや小規模多機能施設の管理者とも連絡を取り情報を交換している。又、それらを活用出来る様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	いつもかなりの時間をかけて十分な説明を行っており、理解納得が得られていると思っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者も職員もあらゆる方向にアンテナをはり情報を共有し運営に反映させている。又家族にも出来るだけホームを訪問して頂ける様こまめに電話やメールをして情報を流す様にしている。	利用者との面会の多さに差があるので面談の他に電話やメールで家族との連携を取り合うようにしている。少なくとも1ヶ月に1回は必ず家族に会い意向や要望を聞いたり、ケアプラン関連の話し合いをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々に意見や提案を聞いてその都度すみやかに反映させている。又、時々外でお茶や食事をしながらのミーティングもして話し易い雰囲気も作っている。	管理者はあらゆる業務に関わりながら日常的に職員とよく話し合うようにしている。ミーティング時や申し送りノートの活用で、シフトに関する内容等にも職員の意見が反映されるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ休日等の条件を十二分に取り入れるように管理者は努めている。個々の職員が力を出し切れる様に職場環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人個人が研修で学んだ事を職員が職場で発揮できる様工夫したり、より深くかかわれるように管理者が注意していくよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームやデイサービス、小規模多機能の施設の方のネットワークで助け合ったり教え合ったりお互いに協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してからかなりの時間、特別に余分な人員を配置して早く慣れて頂く様配慮している。本人が希望する事は出来るだけ受け入れて差し上げ、家族との電話や喫茶店で会ったりして不安を和らげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には家族に頻繁に電話等で連絡を入れ状況報告をして不安をなくす様に努めている。又細かい事でもこまめに情報を電話やメールで入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人が今一番望んでいるサービスを家族の身になって対応に努めている。例えば内科・皮膚科・歯科の診察は家族の代わりに支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべくして差し上げるのではなく自分のやれる事を尊重して見守りさせて頂いている。例えば洗濯畳など出来ない人でも支援しながら一緒に手伝ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と頻繁に連絡をとり、共に見守ろうと呼びかけている。又誕生日などには家族も一緒に祝いの席について頂ける様頼んだりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が来やすい様に支援。又、連れ出して頂いて関係継続が途切れない様にしている。又、連れ出しが難しい家族に代わってこちらからドライブ等連れ出して馴染みの人達に会える様配慮している。	家族・親族の面会が頻繁にあったり、それぞれの友人や知人の訪問もある。散歩の時に馴染みの人に出合ったり、ホームの玄関先の椅子で日向ぼっこの時や、近くの喫茶店等で良い関係が築かれたりする事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆と一緒に歌を歌ったりして楽しんだり個々が好きな事をして頂いて個人を尊重している。(例えば塗り絵、ジグソーパズル、計算ドリルなど)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻ったり他の施設に移っても訪問してその後の様子を確認している。他の施設に移って亡くなった方も一緒に葬儀の手伝いもさせて頂いている。その後も家族が盆や暮れに訪ねて来て下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望を取り入れ、それに添う様努力している。例えば家事が得意な人には洗濯畳みやおやつ作り等を手伝って頂いたり、そうでない人は脳の刺激となるジグソーパズルや計算ドリル・数字盤をして楽しんで頂いている。	帰宅願望がととも強い状態で入居した人に対して「少しでも家に居るように過ごせる工夫はないか、又どの様な対応が良いか」等話し合う記録が会議ノートから見られた。リビングでの過ごし方も各々の意向を尊重している。	かつて服のリフォームの仕事をしていたCさんにちょっとした直しを職員が願う等、それぞれの利用者が生きがいにつながる試みをこれからも発見し支援してあげて下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から出来るだけ詳しく聞き取り、それらに合わせて好き嫌いもなるべく希望に添う様にしているが、いつの間にか嫌いなものも無くなっていて家族もびっくりしている。。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の体調に合わせてなるべく活動的に過ごして頂く様努力している。朝は毎日室内で体操・風船バレー等で体を動かしたり、午前の散歩は車椅子の人、シルバーカーの人と、その人に合わせて日中はなるべく起きて頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの家族、本人の意見を尊重、職員とディスカッションをしてそれらを反映して介護計画を作成している。	利用者の「このホームで気ままに過ごしたい」といった意向を軸にして家族からの希望や情報を参考に、計画作成担当者が職員と相談しながら作成している。定期的にモニタリングをしているが状況の変化にも柔軟に対応している。	今日のリビングでの会話の中で「ここは上げ膳据え膳で有り難いが何かせんと・・・」等、話に花が咲いたが、この様な本人の言葉をメモしておくプラン作成に反映出来る事があるかもしれない。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の共有でその都度気付いた事は連絡ノートや会議録で詳しく情報が共有され、密に連絡を取って介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合で対応出来ない様な時でも管理者がそれを補いサポートしている。 例えば入院しても毎日病院に顔を出し、洗濯物はホームで洗って病院に持って行ったり、通院もホーム側でする事が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として2カ月に1度ぐらいある町内の行事にも積極的に参加しており町内の一員としての役割を楽しんでいる。 例えば地域の盆踊り・お祭り・もちつきに同居者も参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは深夜でも携帯で連絡が出来る、安心して任せられ適切な医療を受けられている。ホーム側からも密に連絡してどんな症状も見逃さず共有している。	管理者と親交の深いホームの協力医が利用者全員のかかりつけ医である為、定期的な往診は元より緊急の場合も対応してもらえるので、本人家族そして職員も安心出来る。受診付き添いは、主として管理者が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、訪問看護師に入って頂いており、ドクターと連絡を取りながら即行動が出来ている。例えば薬が変わったりした時など副作用の出方に注意して観察。ドクターと密に協力して処置出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院中は家族以上に病院とは密に連絡を取り、家族に代わって洗濯物の交換等ホームで行っており、主治医からも家族と同様に扱ってくれて家族と同様に情報を流して下さっている。送迎も家族が無理な時はホームでしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化して自分で食事が出来なくてもホームで職員が補助して食して頂き、家族の希望でぎりぎりまでお世話した。次の施設でよくここまでみてくれたねと言われたらいい。	異常が無かった利用者がある早朝脳出血で即死状態で苦しみ無く亡くなられたり、自然死状態で看取りの期間がほとんど無く逝かれた方等、3例あるが今後も状況によっては家族やDr. と相談して出来る限りの支援をしていこうと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ドクターの指示を仰ぎ救急車が来るまでバトタッチが出来る様血圧等色々な情報がすぐ届けられる様職員も訓練出来ている。就寝中脳出血を起こして救急車で病院へ。後で家族にとっても感謝された。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	すべての部屋より出口に直結しているので迷わず時々訓練と同じに避難できる。 年2回の訓練では短時間で避難出来ており、体の不自由な人には職員がつき、自分一人で避難出来る人は声かけしながら訓練している。又水害の時の為近くのマンションとも話が出来る。	火災対策としては平屋で現在は歩行が困難という利用者が少ないので相応の避難訓練が出来ている。ホームの前に用水が有り風呂の残り湯も溜めるようにしている。津波や昨年の大水害も考慮して対策を考えている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は年長者に教えて頂く様に誇りを損なわない様声かけをしたり又なるべく昔の元気だった頃得意だった事を聞いて自信を取り戻してもらっている。	職員の利用者への声掛けはゆっくり丁寧で、その人を尊重した対応が感じられ心地良かった。それぞれの人の話や訴えにきちんと向き合っていたし、トイレ誘導の時もプライバシーに配慮した対応が出来ていた。	隣で突然立ち上がるDさんに気付いたEさんは危険を感じてか、支えようと手を延ばした。職員が、さりげなく見守って安全を確認していた。それぞれを尊重した一場面であった。心和む、こんな空気を広げたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どの様にしてもらいたいのか時々希望を聞いたり喫茶店等にも連れ出したりしている。時々、うどんやラーメン等、食べたい物を聞き出し作成している。 外食も時々行い、楽しんで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出が出来ない人が多くなっているの、時々庭に出て、日光浴をして頂いたりもする。又、家族と一緒に出かけたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今日はどんな服が良いのか個々に聞き、選んでもらったり時々マニキュアやお化粧品も職員が手伝ってさせて頂くととても楽しそうにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事は味はもちろん色でも楽しんで頂き、希望を聞いて希望に添った献立にしたりしている。毎月1日は赤飯、行事会はお寿司で御馳走を作っている。又誕生日などは家族と一緒に会食して頂いている。	このホームの大黒柱と言っても良いくらい重視している食生活は、利用者の心と健康の礎となっている。同時にこのホームの歴史ともなっている献立日誌は宝物と言えるだろう。職員の入れ代りがあっても妥妥と引き続けられている所が素晴らしい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分をなるべく多く取って頂ける様三度の食事以外にも10時・15時のおやつ以外にも常に水分が摂れるようにコップが側にあり、度々口にして頂く。栄養士も居て、栄養的には1日に30品目を摂取出来るのを目安にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて口腔ケアを行っており、その都度入れ歯のチェックも行っている。又週1度は入れ歯洗浄液で清潔を心がけている。又、自分でケアが難しい人には家族の了承を得て、訪問歯科も利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援	排尿パターンを職員が把握して声かけて全員トイレに誘導しており失敗を極力少なくしている。入居の時紙パンツだったのが布パンツや失禁パンツに改善される例が多い。	排泄の自立支援には特に力を入れているので、入居後改善した例が多く見られる。特に夜中の記録やケアには重点を置いて、利用者の安眠を支援している。個別対応を重視して、パットの種類や使用方法も色々な工夫をしている。	人として排泄の自立は最も重視される事のひとつと思われるが、今のこのホームの状態は利用者同志のそれとない助け合いも含めてとても良い。一日でも長く続けられるよう今の工夫を重ねて欲しい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取の他、便が出易くする薬でこまめに調節出来ているので個々に排便で困る事は殆どない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴が望ましいが隔日か隔々日には必ず入浴。ゆったりしたい人には個々にそって歌を歌ったり楽しくおしゃべりしながら入っている。	現在は重度の利用者が少なくなり、立位が難しい人は1人という状況なので見守りを中心として個別対応をしている。入浴は一对一の楽しいおしゃべりタイムとなる事もあって、利用者にとっては嬉しい時となるに違いない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもベットで休息出来るがなるべく日中はリビングで過ごして頂く。夜は安眠出来ていて昼夜逆転する様な事はない。もしその兆候があればドクターと連絡を取って軽い眠剤で殆ど解決しており基本的には薬は少なくしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターと密に連絡を取りながら用量も抜いたり追加したりと変化に応じて支援している。症状の変化には管理者に即報告があり、ドクターより受診の必要があればすぐ連れて行き診察して頂く。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	町内の行事に参加したり誕生会や外食・お花見等きつくならない様に気を配りながら支援している。又、ジグソーパズル、計算ドリル等で達成感も味わって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	町内行事にも積極的に参加し顔馴染みとなっている。喫茶店・病院への外出も家族同様に支援している。家族の祝事や法事等も積極的に(ホームで送り迎えをしたりして)出席出来る様支援している。	以前は1日2回近くの公園に行くのが日課となっていたが、利用者の状態やインフルエンザの流行期等配慮しながら日常的な外出を支援している。個別の希望に添った外出や地域の行事に参加する等の他、お天気の良い日はホーム前の空間を利用して日光浴をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	車で来るパン屋さんから好きなパンを買って頂きホームで支払いしている。すべてホームの食費として支払い、本人から頂いていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がしたい時は電話をかけて頂いたり手紙を書いたものをポストに入れたり支援している。又かかってきた電話も電話口に出て頂く様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎にリビングを飾りその飾り物も一緒に作成したりしている。花々も庭に植えたり室内に生けている。夏には庭に野菜も植えて実りの楽しさを味わって頂いている。	日中居室で休む事もあるが、ほとんどの人はリビングで過ごしている。車椅子でなくシルバーカーを使ってトイレに行く人・壁や家具頼りに移動する等、この共用空間が自立歩行を助けている。人と人との距離が近いので、利用者同志の関わりが良い事もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じテーブルの人との話で職員は見守りしていて話に花が咲いている時は聞き役に徹している。又、一人になりたい人は自室に入ってテレビを見たりして一人を楽しんで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の家で使っていた物を持ちこんで頂き安心して居室で過ごして頂ける様に支援している。読書の本、趣味の本など家族も自由に差し入れている。又仏壇の持ち込みもされている方もいる。	家族が誕生日にお祝い送ってきてくれた物を居室に飾る等、家族の思い入れが感じられたり自分の好みの物や小物を置く等、その人らしい居室になっている。自室から共同トイレにつながる部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員に余力がある様に配備してゆったり見守りが出来ている。余りこちらが手を出さず、なるべく時間はかかっても自立に近づけている。又トイレには「トイレ」と書き「洗面所」や各個室に名前を書いて判り易くしている。		